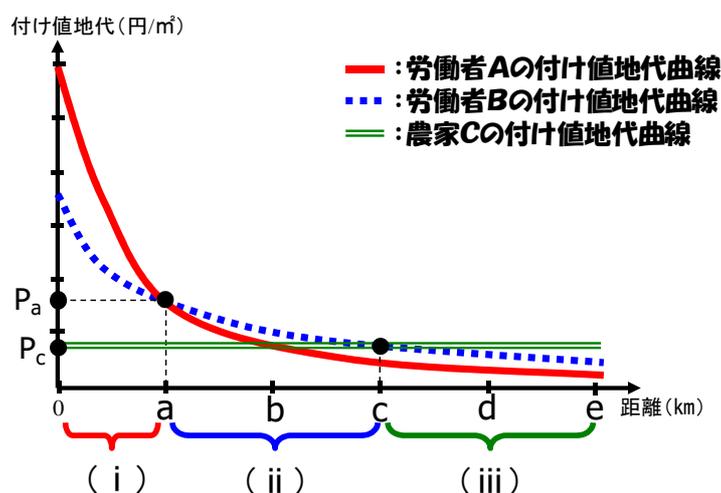


『都市の経済学 小テスト No. 7』

以下の各問に答えよ。ただし、解答はマークシート方式となっているので、問題の解答番号に入る数値または選択肢番号を解答用紙（マークシート）に解答すること。

※ で囲まれた数字は解答番号を示す。○で囲まれた数字は選択肢番号を示す。

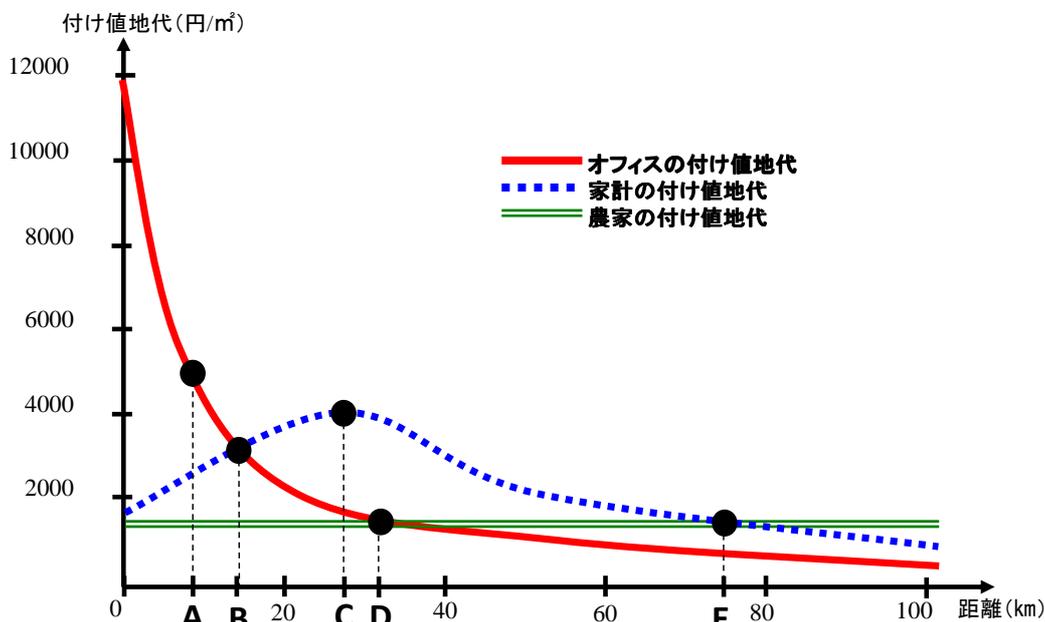
図 1



- 労働者 A、労働者 B、農家 C の 3 種類の個人が同一の都市内にいる場合、彼らの付け値地代はそれぞれ図 1 のようになった。この時、区間(i)の土地を借りるのは (①労働者 A、②労働者 B、③農家 C) である。これは、地主が区間(i)で (①最も低い市場地代、②最も高い市場地代、③最も低い付け値地代、④最も高い付け値地代) を提示している個人に、その土地を貸し出すからである。
- 図 1 において、労働者 B の付け値地代が市場地代となるのは (①区間(i)、②区間(ii)、③区間(iii)、④区間(i)と区間(ii)、⑤区間(ii)と区間(iii)、⑥その他) である。
- 労働者 A と労働者 B の違いは所得にあるとしよう。所得の異なる個人が同一の都市内に存在するためには、各労働者が提示する付け値地代曲線が、どこかで交差するような形か、または (①交差することが無い形、②完全に一致する形、③その他) でなくてはならない。どちらのパターンであるかを確認するためには、地点 (①a、②b、③c、④d、⑤e) と、そこから離れた地点における各労働者の付け値地代を比較することで可能である。なぜなら、各労働者の提示する付け値地代曲線がどこかで交差するような形であるならば、離れた地点における付け値地代は (①同じになる、②異なる、③Pa になる、④その他) からである。
- a 地点より中心に近い場所では、 (①所得、②交通費、③合成財価格、④市場地代、⑤その他) が減少することで可処分所得が増加し、労働者 A と労働者 B の付け値地代は (①両者とも下落する、②両者とも上昇する、③一方だけ下落する、④一方だけ上昇する、⑤その他)。ただし、変化後の付け値地代を比較すると、付け値地代がより高いのは (①高所得者、②低所得者、③農家) なので、高所得者は (①労働者 A、②労働者 B、③農家 C) である。

外部不経済への対策費用を考慮した結果、家計の付け値地代は図2の点線のような形になった。以下の問いに答えなさい。

図2



5. 家計の可処分所得が最大化する距離は 11 (①点 A、②点 B、**③点 C**、④点 D、⑤点 E、⑥その他) である。
 ヒント：「可処分所得＝合成財出＋地代支出」である。つまり、収入から外部不経済への対策費用と交通費を引いた残りの金額が可処分所得になる。可処分所得が最大になるとき、家計の付け値はどうなるかを考えてみよう。
6. 公害問題の緩和を目指して、政府はオフィスが立地できる場所を図2の中心部から点 A までと規制した。この時、外部不経済の総量が減少することによって、家計の対策費用は 12 (①増加する、**②減少する**、③変わらない、④分からない、⑤その他)。これにより、家計の付け値地代は都市全体で 13 (①上昇する、**②低下する**、③変わらない、④分からない、⑤その他)。この結果、社会全体での便益は増加する可能性がある。
7. 公害問題の緩和を目指して、政府はオフィスが立地できる場所を図2の中心部から点 B までに規制した。この時、社会全体の便益は 14 (①増加する、②減少する、**③変わらない**、④分からない、⑤その他)。